

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 3 区分
 【発行日】平成 18 年 8 月 3 日 (2006.8.3)

【公開番号】特開 2004-35884 (P2004-35884A)
 【公開日】平成 16 年 2 月 5 日 (2004.2.5)
 【年通号数】公開・登録公報 2004-005
 【出願番号】特願 2003-175892 (P2003-175892)
 【国際特許分類】

C 0 9 D 11/00 (2006.01)

B 4 1 M 5/00 (2006.01)

B 4 1 J 2/01 (2006.01)

【F I】

C 0 9 D 11/00

B 4 1 M 5/00 A

B 4 1 M 5/00 E

B 4 1 J 3/04 1 0 1 Y

B 4 1 J 3/04 1 0 1 Z

【手続補正書】
 【提出日】平成 18 年 6 月 15 日 (2006.6.15)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

室温で固体であり、かつ高温で液体である溶融可能なインクであって、前記インクが間接印刷プロセスに使用するのに適しており、間接印刷プロセスにおいて、インクジェットプリントヘッドを使用することによって、前記インクが、個々のインク滴の形状で転写エレメントに転写され、その後、前記転写エレメントを受け取り材料に圧力をかけて接触させることによって、インクが前記受け取り材料に転写され、前記インクが下限および上限の間の温度で圧力転写可能であるような組成物を有し、前記インクが、上限に等しい温度で $2.0 \times 10^5 \text{ Pa} \cdot \text{s}$ 未満の変形エネルギーを有することを特徴とする溶融可能なインク。

【請求項 2】

前記インクが、上限に等しい温度で $1.0 \times 10^5 \text{ Pa} \cdot \text{s}$ 未満の変形エネルギーを有することを特徴とする、請求項 1 に記載の溶融可能なインク。

【請求項 3】

前記インクが、上限に等しい温度で $2 \times 10^5 \text{ Pa} \cdot \text{s}$ よりも小さな変形エネルギーを有することを特徴とする、請求項 2 に記載の溶融可能なインク。

【請求項 4】

前記インクが、半結晶質結合剤および結晶質増粘剤を含む、請求項 1 から 3 のいずれか一項に記載の溶融可能なインク。

【請求項 5】

前記インクが、結合剤、非晶質固化柔軟剤、および結晶質増粘剤を含む、請求項 1 から 3 のいずれか一項に記載の溶融可能なインク。

【請求項 6】

前記インクが、結晶質固化柔軟剤、結晶質増粘剤、および任意に結合剤を含む、請求項

1 から 3 のいずれか一項に記載の溶融可能なインク。

【請求項 7】

室温で固体であり、間接印刷プロセスに使用するのに適した溶融可能なインクを選択する方法であって、間接印刷プロセスにおいて、前記インクが、インクジェットプリントヘッドを使用することによって転写エレメントに転写され、その後、前記インクが、圧力をかけて前記転写エレメントから受け取り材料に転写され、インクが、下限と上限の間の温度で前記インクが圧力転写可能であるような組成物を有し、

前記方法が、

前記インクが圧力転写可能であるかどうかを求めること、

前記インクが圧力転写可能である場合に上限の温度を求めることとを含み、

前記方法がさらに、

前記上限の温度での前記インクの変形エネルギーを、例 5 または 6 で示したようにして求めること、

前記変形エネルギーが $20 \times 10^5 \text{ Pa} \cdot \text{s}$ 未満の場合に、前記インクを選択することを含むことを特徴とする方法。

【請求項 8】

前記変形エネルギーが $10 \times 10^5 \text{ Pa} \cdot \text{s}$ である場合に、前記インクを選択することとを特徴とする、請求項 7 に記載の方法。

【請求項 9】

前記変形エネルギーが $2 \times 10^5 \text{ Pa} \cdot \text{s}$ 未満である場合に、前記インクを選択することとを特徴とする、請求項 8 に記載の方法。